

スーパー・ジョッキーズ・トライアル

SUPER JOCKEYS TRIAL 2014

スーパー・ジョッキーズ・トライアルは、
JRA東京競馬場で開催される
第28回ワールド・スーパー・ジョッキーズ
シリーズ(WSJS)に出場する
地方競馬代表騎手選定競走です。



成績は8月29日現在のものです

SJT本戦出場騎手



宮崎 光行 (北海道)

2回目

北海優駿を4勝、昨年12月にはハッピースプリントで全日本2歳優駿(JpnI)を勝利した実績がある、大舞台に強いベテラン騎手。最近はケガに泣かされるシーズンも多かったが、今年は開幕から順調に勝利を重ねて、2008年以来のSJT出場となった。そのときの結果は13位だったが、今回はジャンプアップを狙いたい。

2014年成績 262戦57勝(重賞1勝) 北海道1位
過去のSJT最高成績 2008年13位



的場 文男 (大井)

9回目

昭和48(1973)年10月の初騎乗からのキャリアは40年以上。積み重ねた勝利は6600を超えてる「レジェンド」。南関東リーディングは2003年を最後に遠ざかっているが、それでも常に上位の勝ち星をマークしており、関係者やファンからの信頼は厚い。SJTでは2009年に第2ステージで2勝を挙げて優勝した。

2014年成績 783戦92勝(重賞1勝) 南関東4位
過去のSJT最高成績 2009年1位



赤岡 修次 (高知)

9回目

2006年から8年連続リーディング、2007年以降は年間200勝以上を7年連続で達成している高知競馬の絶対王者。SJTでは2007年に総合優勝を果たし、ワールド・スーパー・ジョッキーズシリーズでも1勝を挙げて総合第3位に入る活躍を見せた。それ以降のSJTでは7位以下が続いているが、改めてここで存在感を見せたいところだ。

2014年成績 477戦142勝(重賞2勝) 高知1位
過去のSJT最高成績 2007年1位



村上 忍 (岩手)

4回目

長らく、菅原勲、小林俊彦のビッグツーに次ぐ位置で争ってきたが、2008年に初の世代交代を果たし、それ以後は2010年を除いて岩手のトップとして君臨。SJTには通算4回目の出場となるが、これまでの最高は2011年の6位。今年は第1ステージが地元の盛岡競馬場となるのは、大きなアドバンテージとなる。

2014年成績 547戦107勝(重賞7勝) 岩手1位
過去のSJT最高成績 2011年6位



吉田 晃浩 (金沢)

2回目

2000年に山形・上山競馬場でデビューして、浦和を経て金沢に移籍。2008年から4年連続で金沢2位となり、一昨年初のリーディングを獲得した。昨年も接戦を制して2年連続のトップを守ると、今年は開幕から快進撃を続け、2位以下に大差をつけてリーディングを独走中。SJTには2012年(7位)以来、2度目の出場となる。

2014年成績 320戦76勝(重賞2勝) 金沢1位
過去のSJT最高成績 2012年7位



山口 勲 (佐賀)

8回目

2008年以降、圧倒的な成績でリーディングの座に君臨し続ける佐賀の名手。2010年には294勝を挙げ、九州地区所属の騎手としては25年振りとなる地方競馬全国リーディングを獲得した。SJTには過去7回出場して、2012年に総合優勝。ワールド・スーパー・ジョッキーズシリーズでも第2戦で勝利を挙げ、存在感を示した。

2014年成績 426戦124勝(重賞10勝) 佐賀1位
過去のSJT最高成績 2012年1位



森 泰斗 (船橋)

4回目

1998年に栃木(宇都宮・足利)でデビューし、2005年から船橋に所属。その後は徐々に成績を上げて、初めての重賞勝利を飾った2010年からは、年間3ケタ勝利を継続中で、今年は初の南関東リーディング獲得が視野に入っている。SJTには2011年以降毎年出場しており、そろそろ大きな結果が欲しいところだ。

2014年成績 1071戦152勝(重賞1勝) 南関東1位
過去のSJT最高成績 2012年6位



向山 牧 (笠松)

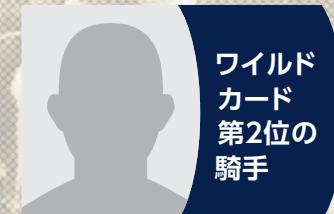
初出場

1983年に新潟県競馬でデビューして、同競馬の廃止までに9回のリーディングを獲得。2002年に笠松競馬に移籍して活躍を続け、昨年は笠松でもリーディングの座についた。SJT本戦には初出場となるが、昨年ワイルドカードに出場し、2位と1ポイント差で惜しくも本戦への切符を逃した悔しさを晴らしたい。

2014年成績 315戦76勝(重賞0勝) 笠松1位
過去のSJT最高成績



ワイルド
カード
優勝騎手



ワイルド
カード
第2位の
騎手



御神本 訓史 (大井)

4回目

1999年に島根・益田競馬場でデビューし、2年目にしてリーディングジョッキーになるなど、早くからその才能を開花させた。2002年に大井に移籍してからも活躍を続け、昨年ついに南関東リーディングの座を獲得。トップジョッキーとしての地位を握るぎないものとした。過去のSJTでは3位が最高で、今年こそ悲願の優勝を目指す。

2014年成績 740戦137勝(重賞1勝) 南関東2位
過去のSJT最高成績 2008・2013年3位

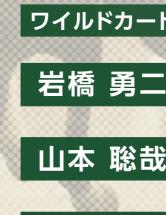


丸野 勝虎 (愛知)

初出場

2003年東海ステークス(GII)、2004年名古屋優駿(GIII)を優勝するなど、ここ一番で頼れるベテラン騎手。地元では騎手会長の重責も担う。過去のリーディングは2位が最高だが、今年は初のトップが狙える位置にいる。SJTにはワイルドカードを含めて初出場。第2ステージが行われる地元の名古屋競馬場で、歓喜の瞬間をを迎えたい。

2014年成績 379戦98勝(重賞3勝) 愛知1位
過去のSJT最高成績



ワイルドカード出場騎手



岩橋 勇二

北海道



田中 学

兵庫



山本 聰哉

岩手



永森 大智

高知

山崎 誠士

川崎

鮫島 克也

佐賀

藤田 弘治

金沢

吉井 友彦

笠松

川原 正一

兵庫

岡部 誠

愛知

吉原 寛人

金沢



真島 大輔 (大井)

3回目

2001年のデビュー後は苦戦が続いたが、2005年から上昇を開始して2008年以降は年間100勝以上と南関東の上位の座を確かなものに。昨年は通算1000勝を達成し、年間でも201勝の好成績を挙げたが、SJTでは第1ステージで敗退となる13位。一昨年も12位と思うような結果を出させていないが、一気に浮上を狙いたい。

2014年成績 986戦129勝(重賞0勝) 南関東3位
過去のSJT最高成績 2012年12位



木村 健 (兵庫)

5回目

2006年以来、合計4度リーディングに輝いた兵庫のトップジョッキー。この4年で兵庫ダービーを3回制すなど大舞台にも強く、今年はかきつばた記念(JpnIII)で念願のダートグレード初勝利を飾った。SJTには過去に4回出場しており、2011年にはわずか1ポイント差で涙を飲んだ。その悔しさをバネに、今年こそリベンジをと狙ってくることだろう。

2014年成績 753戦179勝(重賞6勝) 兵庫1位
過去のSJT最高成績 2011年2位

招待競走地方競馬代表騎手選定委員会選定騎手(2名)